

# 梨害虫にLED灯

## 埼玉で試験設置、効果探る



梨園に防蛾灯を設置する三橋主任④ら  
(埼玉県白岡市で)

【埼玉・南彩】埼玉県春日部農林振興センターは、シンクイムシ類の防除に使える新装置、発光ダイオード(LED)防蛾(ぼうが)灯「レピガードST」を、白岡市内の梨園地に試験的に設置した。夜間に点灯することで、夜行性の同害虫に昼間と誤認させて園内への侵入を防ぎ、交尾や産卵を制御することを狙う。防除の省力化やコスト低減の効果を確かめた上で、普及につなげたい考えだ。

同市の農業法人アルファイノベーションの7㍏の梨園地に、6月上旬に設置した。同装置の設置は県内では初

の試みという。シンクイムシ類は梨の新梢(しんしょう)や果実を加害する。同装置は、同害虫の防除に最も効果のある570ナノメートルの波長を使ったLED防蛾灯。夜行性のため、一定以上の明るさになると活動を停止する同害虫の性質を利用する。夜間点灯しても作物の成長や隣接地に影響を与えず、他昆虫を誘引しない。

設置を提案した同センターの三橋伊路主任は「LED灯で被害を軽減できれば、防除作業の省力化にもつながる。有効性が確認できれば広めていきたい」と話した。